

「ビブリオバトル首都決戦 2011 予選会 in 城西」を開催して

若 生 政 江*

1. ビブリオバトルとは

みなさんはビブリオバトルをご存知でしょうか？ ビブリオバトルとは、

1. お気に入りの本を持って集まる。
2. 順番に1人5分でその本の紹介をする。
3. どの本を読みたくなったか？ を出場者、聴衆者で投票をしてチャンプ本を決める。

という、知的書評合戦です。

課題図書などがあるわけではなく、自分で読んで面白いと思ったものを自分の言葉で、パワーポイントもレジュメもなしで語ります。5分の発表の後、2分間で聴衆とのディスカッションを行いますが、どんな質問が出るかもわかりません。聞き手の多くが一番読んでみたくなったと思う本がチャンプ本になります。自分の言葉でいかに聞く人の心をつかむか、5分という限られた時間内で、その本の魅力、面白さを他人に伝え、読んでみたいと思わせる、これはプレゼンテーションの勉強にもなります。

考案者の京都大学谷口忠大先生は、ビブリオバトル公式サイト¹⁾の中の「ビブリオバトル誕生」²⁾で「いい本に出会える仕組み自体を勉強会の中に取り込めないだろうか？」と考え、「人の脳は自分が話さないと活性化しない」「『即興性』を大切に、みんなが探してきた本をレジュメもなく紹介し合って、その中で一番いい本を勉強すればいいんじゃないか？」と考えられたことを紹介しています。

2. 予選会の開催

今回の予選会を城西大学水田記念図書館（以下、図書館）で開催するに至った経緯は、紀伊國屋書店さんからの案内が発端でした。首都決戦に出場するためには、予選会を行わなければなりません。予選会開催団体の公募があり、応募団体の条件には、大学のサークル、研究室、ゼミなどの授業、生協、図書館、書店、読書会グループ、任意団体であることになっています。予選会には4名以上の大学生、大学院生の発表者を集めなけれ



知的書評合戦

ビブリオバトル

<http://shuto.bibliobattle.jp/>

審査員は、あなたです！

- 予選会 10月14日(金) 16:45 開会
- 会場 図書館3階グループ学習室

「この本をお薦めしたい」「この本の魅力をみんなに知ってもらいたい」立ち上がった本好きたちが、お気に入りの本を1人5分で紹介します。会場で聴いて、読みたくなった本に投票してください。図書館3階グループ学習室に集まった全員（プレゼンターも）が審査員です。聴講は自由。誰でも参加できます（席に限りはありますが）。ここで選ばれたチャンプ本は首都決戦へと進出します。聴いて、投票して、あなたの手でチャンプ本を誕生させてあげてください！

★ビブリオバトルとは

1. お気に入りの本を持って集まる！
 2. 順番に1人5分でその本の魅力を紹介！
 3. 「どの本が一番読みたくなったか？」を会場にいる全員で投票を行いチャンプ本を決定！
- *前回出場者・宮嶋くんの話が載っています。
<http://libopac.josai.ac.jp/top/whatsnew110628.html>
 BookMark(図書館報)9・10月号

首都決戦はこちら

ファイナル！首都決戦 2011 開催概要
 開催日 2011年10月30日(日)
 開催場所 ベルサール秋葉原

主 催 東京駅、新大塚人文学・造学文化推進機構、
 ビブリオバトル東京支部
 協 力 紀伊國屋書店、読書家倶楽部

城西大学水田記念図書館

* Masae WAKO

城西大学水田記念図書館
 〒350-0295 坂戸市けやき台 1-1
 E-mail: wako@josai.ac.jp

図1 ビブリオバトル予選会のチラシ

ばなりません。また、聞き手になり投票をする参加者も必要です。

まずは、出場希望者があるかどうか？ 図書館内はもちろんですが、キャンパス内にポスターを掲示、チラシを配布（図1）、ホームページやツイッター、デジタルサイネージ等で広報活動を行い、教員に紹介していただくようお願いもしました。

すると、最初に1人の応募があり、それでは何とか4名集めなければと、カウンターでも声掛けし、よく図書館を利用してくれる4名が揃いました。これで予選会開催団体として首都決戦参戦の応募ができます。

3. 予選会当日

当日、聞き手になってチャンプ本の投票に参加する参加者は10名以上が必要です。「審査員は、あなたです！」と銘打ってチラシを配布していましたが、果たして何人来てくれるかと心配していたところ、本好きな学生のほかに、教員2名、事務局長、入試課や他部署の職員など17名が来場しました。出場者合わせて21名の投票者、こちらも条件は整いました。

観客注視の中、緊張した面持ちで自分のお気に入り本の紹介に熱弁をふるう4名、持ち時間が済むと、聞き手も「どうしてその本が好きなの？」「他にどんな本を読んだの？」「そこについてはどう考える？」などと参加します。お気に入り本の紹介とその後のディスカッションで、その学生の人となりが少しずつ見えてきます。図書館利用者としての顔から、少し内面を見せてくれている本好きな学生となり、親近感を覚えたのは私だけではないでしょう。

最後に出場者、聞き手全員でどの本が読みたくなったかを投票しますが、出場者が自分に投票することは許されません。みごと予選会を勝ち抜いたのは、M君紹介の「銀河鉄道の夜」でした。ちなみにM君は、今年6月26日に紀伊國屋ホールで開催された「ビブリオバトル in 紀伊國屋大学生大会」に本学代表として出場し、大健闘した学生です。参加者みなで応援に行こう！と盛り上がり、事務局長の的確な講評と学生への心温まる

応援メッセージで予選会終了となりました。

4. 予選会を終えて

図書館として予選会を初めて開催したのですが、「開催してよかった」との結論に至っています。予選会は、発表者も聞き手の参加者もとても楽しい時間を共有することができました。会が終わっても熱気は引かず、出場者同士、聞き手として参加した学生も一緒になって「あの本読んだ？」「どうだった？」「どんな本が好き？」「僕も読んだ」と、なかなか帰る気配がありません。出場者はそれぞれ学部が違い、今回の予選会で初めて知り合った学生もいたはずです。スタッフに誘われて「僕は理系だから」と躊躇していた薬学部の男子学生も、終わっての感想は、「すごく面白かった」と楽しそう。人前で自分の考えを述べるのは初めてなのか緊張していたT君、予選会の後は自信を持ったのか、笑顔で入館するようになりました。まさに、ビブリオバトルの目的でもある、1. 「本を介して人を知る」、2. 発表者の「人となり」に出会える、3. 新たな本に出会える、を実践しているではありませんか。

図書館スタッフも初めての予選会運営を見事にまとめ、良い経験を積みました。「これが恒例になるといいね」「学生が自ら企画して運営するように育ってくればいいね。それまで続けよう」スタッフも学生やこの大学に愛着を持って楽しみながら仕事をしている、このことも図書館にとって重要なことなのです。

5. おわりに

10月30日、ベルサール秋葉原で開催された「ファイナル！首都決戦2011」では、全国の予選を勝ち抜いた33名の大学生・大学院生が出場し、AからEグループに分かれて準決勝が行われ、勝ち進んだ5名が決勝戦を戦いました。ゼミの先生や私たちが見守る中、M君は惜しくもチャンプを逃しましたが、本人にとって、この出場はとてもよい経験になったのではないかと思います。若者の活字離れが取りざたされて久しい中、読書の楽しさに加えて、ビブリオバトルのようなゲーム感覚で、人にその面白さを伝えるという経験が、

さらに読書欲をそそり、全国の本好き仲間に出会えるきっかけとなった、大きな財産になってほしいと思います。

ちなみに今回のチャンプ本は、西澤保彦著『彼女はもういない』で、北海道教育大学岩見沢校の学生が選ばれました。この本、早速書店さんに予約を入れました。

当日の様子は YouTube³⁾ で見ることができます。また、本学予選会については、図書館ホームページでも紹介しています⁴⁾。

参 考 文 献

- 1) ビブリオバトル公式サイト. (オンライン), 入手先 <<http://www.bibliobattle.jp/>>, (参照 2011-11-09).
- 2) ビブリオバトル誕生. (オンライン), 入手先 <<http://www.bibliobattle.jp/biburiobatoruno-rekishi>>, (参照 2011-11-09).
- 3) YouTube の動画サイト. (オンライン), 入手先 <<http://www.youtube.com/user/Bibliobattle2011>>, (参照 2011-11-09).
- 4) 城西大学水田記念図書館 Whats New の記事. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/top/whatsnew111014.html>>, (参照 2011-11-09).

(原稿受付け：2011.11.9)